

2008年5月(先月の重大ニュース)

学校裏サイト3万8000件

いじめなどの温床になっているとされる「学校裏サイト」について、文部科学省は、初めて行った実態調査の結果を公表した。今年1月から3月に調査を実施。学校が関与していないが、学校生活について書き込まれているサイトを「学校非公式サイト」(学校裏サイト)と位置づけ調べた結果、3万8260件が見つかった。中学・高校(全国で計約1万6000校)に関するサイトが中心だが、小学校関係のものもあるという。このうち、群馬、兵庫、静岡の計3県にある裏サイト2000件の書き込みを細かく調査。「キモイ」「ウザイ」「チビ」といった誹謗・中傷する32語を含むサイトが50%にのぼり、性器の俗称などわいせつな12語を含むものが37%、「死ね」「殺す」などの暴力表現の20語を含むものが27%あった。(15日)

新型インフル、子どもに治験

厚生労働省は年内に、新型インフルエンザのプレパンデミック(大流行前)ワクチンを、6か月～19歳の子どもに接種する治験(臨床試験で効果や安全性をみること)を始めると明らかにした。ワクチンは2007年までに成人への治験を行い、承認・製造された。今回は子どもにも効果がある投与量を調べる。同省は年度内にも、感染者に接触する可能性の高い医師や検疫官ら6000人にワクチン接種を行い、安全性が確認できたら09年度に医療従事者や警察官ら社会機能維持者1000万人に対象を広げる考えで、今回の治験は事前接種の対象に子どもを含めるかどうかの検討につながるという。(16日)

図書費44億円、目的外に使用

公立小中学校の図書館の本の購入費として、国が07年度に各自治体に配分した約200億円のうち、校舎建築など他の目的に使われた額が2割強の約44億円とみられることが、文部科学省の初の調査でわかった。(21日)

全国学力調査 記述式「難しかった」 結果は9月頃

全国の小6と中3を対象とした「全国学力・学習状況調査」が22日に行われました。文部科学省が実施し、国立教育政策研究所が問題の作成や調査結果の分析を担当しています。原則全員を対象とした調査として43年ぶりだった昨年に続く実施で、約3万2500校の小中学校で、約232万人が受けました。

文科省によると、当日は4道県の計5校でインフルエンザなどによる学級・学年閉鎖があって実施されませんでした。「大きな支障はなく適切に行われた」といいます。参加校は全国の小学校の約99.5%と、中学校の約97.1%(17日の集計時点)。国公立校は昨年に続いて参加しなかった愛知県犬山市の14校をのぞく全校が参加。私立校の参加率は約53.5%にとどまり、昨年(61.2%)よりも下がりました。(22日)

09年春から指導要領を前倒し

文部科学省は、11年度から全面的に始まる新しい学習指導要領の一部を前倒しですすめ、09年度から小中学校の理科と算数・数学の授業時間と内容を増やすことを発表した。この結果、小学校では09年春から各学年で授業時間が週1コマ増える。中学校は選択教科や総合学習を削減するため、12年春の全面実施まで授業時間は変わらない。理科と算数・数学は現在の教科書に載っていない内容を教えることになるため、補助教材を配布する予定という。(24日)